

宇和島にやってきた!

僕ら地域おこし協力隊!

Wind

Mountain

Sun

Field

&

People

Ocean



地域おこし協力隊活動レポート vol. 03

今回は、平成26年7月から戸島地区に着任した上甲 教文 さんの活動レポートです。宇和島のために仕事がしたいと東京から30年ぶりに帰郷した上甲さんは、宇和島の現状を目の当たりにし、地域が自力で発展していける仕組み作りの必要性を感じたことから、「NPO法人元気島プロジェクト」に参画して日々活動しています。

私が地域おこし協力隊になった最大の理由は、宇和島経済の入金窓口である海、山を中心とした1次産業を盛り上げたいと思ったからです。

宇和島の場合、過去も現在もお金を稼いでくる役割の大半を1次産業が担っています。宇和島ではテレビも冷蔵庫も携帯電話も作っていません。しかし、皆さん必要なのでそれらを買いますが、そうするとお金がどんどん宇和島から出て行ってしまいます。ということは、それ以上のお金をどこかで稼いでこなければ、いずれ宇和島にお金がなくなってしまうことになります。

私が知るこの30年の間、宇和島の人口は減り続けていて、特に若年層の減少傾向は深刻です。以前は1学年3クラスあった市内中心部の小学校でも今では1~2クラスしかありません。これは、少なくとも過去30年に渡って宇和島のお金が減っていったことの証でもあります。

30年ぶりに宇和島に帰ってきて、商店街のかつての賑わいを知る者としては寂しく思いますし、賑わって欲しいとも思います。そして、商店街を盛り上げようと多くの人が頑張ってく

ださっていることも知りました。であればこそ、街で頑張っている人たち以上に、海と山で生きる人が頑張らなければならないと思います。



商店街での市民会議「おまち会議」の様子

現在23人の戸島っ子が戸島小学校に通っています。この子どもたちは戸島の宝です。が、宇和海の水産業を支えていく次世代はもうちょっと多くてもいいですよ。稼げる宇和海になるお手伝いととも、子どもを増やすお手伝いも同時進行で取り組んでいきます。



戸島っ子は地域の宝です

島が自立し継続した活動を行っていくための組織、「NPO法人元気島プロジェクト」が、平成25年に設立されました。昨年11月には、戸島の綺麗な海でお酒を熟成させる「海底熟成」にチャレンジし、申し込みのあった方からお預かりしたお酒を戸島の海に沈めました。これは水産業や子どもの数とは関係ないように見えるかもしれませんが、無関係ではありません。地域おこしを前に進めるためには、どうしても資金が必要で、その資金を稼ぐことが地域おこしのはじめの1歩なんです。

これからも戸島のあらゆる資源を活用して地域おこし資金を確保し、継続・発展していきますので、皆さまどうかご協力を~



酒を海に沈める様子。陸上の5倍の速さで熟成すると言われています。

*次回は、広報うわじま4月号に掲載します。
【問合先】企画情報課 ☎24-1111内線2526